

日本地学五輪「銅」に輝く

天文学に関心、独学で挑戦

【佐野】佐野高2年店網航輝^{たなみこう}さん(16)がこのほど、独学で

挑戦した第13回日本地学オリンピック(地学五輪)の本選に出場し、銅賞を受賞した。地学五輪は全国の地学好きの中学・高校生が知識や思考力を競う大会で、毎年約1500人が参加。1次、2次、本選、さらに代表選抜と進むと国際地学五輪に出場できる。今回、代表は逃したが「次回も挑戦し日本代表になりたい」と意欲を見せている。

(藤田りか)

第13回日本地学オリンピックで銅賞を受賞した店網さん



今大会はコロナ禍の中、約1400人が参加。3月

に行われた本選では、全国は店網さん一人だけだった。有名進学校の生徒ら40人

が在籍校などで受験した。

店網さんは高校進学後、宇都宮大の科学技術人材育成プログラム「グローバルサイエンスキャンパス(i

P-U)」に参加し、地学五輪を知った。佐野高の教育課程に地学はないが、天文学に関心を持っていたため独学で挑んだ。

問題は地質や気象、海洋天文の各分野から出題される。店網さんはまずテキスト「地学基礎」を読み込み、毎日図鑑をめくり5年分の過去問題を解いて試験に臨んだ。「天文の問題は物理の知識が必要で計算が難しかった」と話す。

試験後のオンライン交流会で、国際大会参加者や同世代の話が刺激になったという。店網さんは「オリンピックへ向けた勉強を通して、さらに地学への関心が強まった」と話した。